

睦月

〔むつき〕令和5年1月

新しい年を一家の人々で仲よく迎える月という意味で、睦には「むつみ」すなわち「なかよく親しみあう」の意味があります。

発行：北海道神社庁一区教化委員会

天地の神にぞ祈る朝なぎの海のごとくに波たたため世を

昭和天皇御製

今月のことば

天地の神にぞ祈る朝なぎの海のごとくに波たたため世を

昭和天皇陛下御製

昭和八年の御製である。全国の神社では「浦安の舞」の歌として、神前でこの御製を歌い舞っている。歴史は時代のベールの向う側に去って、歌の御心だものが今日に生き続けている。それは陛下の御心が永遠のもの、いついかなる時も「朝なぎの海のごとくに波たたため世」の実現を祈る以外にない。それは神社の祈り、神の御心の同じで、全国の神社が、その祭祀に「村内安全」「天下泰平」ののぼりを立てるのも、それが神の御心に外ならないからである。神の御心を表現される以外にないことを知っているその神の祖神に天照大御神は、日本書紀によれば「恩親心」をつくされるにあら。一般的には「睦まじい心（仲良くする心）」を第一とされる。それによって「恩」の字のあてられるのは、神のお陰、人のお陰によって生きられることに對する感謝の念を持つことである。「それが神、人、自然に對する敬愛と親しみとに通ずる。」それが神、人、自然に對する自然現象として「朝なぎの海のごとくに波たたため世」で平和の姿の実現こそ、天地の神にいのらないでいられない。人生も穏やかな晩年を迎えたいと思うように、村内のこの祈り、神の御心であることに思いをいたした。

（続神道百言 一般財団法人神道文化会編より抜粋）

季節のまつり

御節

おせち料理は

神様に供える御節供

「おせち」は、もともとは季節の変わり目の節供（節句）に、年神様に供えるための「お節」料理でした。なかでも正月がもっとも重要な節供という事から、正月料理に限定していうようになりました。

「おせち」は年神様に供えるための供物料理であるとともに、家族の繁栄を願う縁起ものの家庭料理でもあります。

鏡開

一月十一日

お供え餅で開運

正月の間お供えしていた鏡餅をおさげしておしるこにして食べる行事です。鏡餅は刃物を使わないのがしきたりで、手や木槌で割るため切ると言わずに運を「開く」という意味をこめて鏡開きと言います。



Q、お参りの作法を教えてください

鳥居からくぐりますがこのとき、軽く一礼します。参道は中央を歩かないようにしましょう。道の真ん中は、神様の通り道だからです。

境内に入ったらず水舎で清めをします。右手に柄杓を取って清水に汲んで左手にかけ清めます。次に柄杓を持ち替えて右手にもかけます。そして再び持ち替えて左手のひらに水を受けて、口をすすぎます。最後にもう一度左手で水を流します。

拝殿の前に進み軽く一礼してから、賽銭を入れ、鈴があるなら鈴を鳴らして、「二拝二拍手一拝」の作法でお参りをします。この時正式には、礼は九十度に体を折り、拍手は両手を胸の高さに合わせ、右手を少し引いてから、二度拍手を打ちます。右手を戻して両手を合わせ、ここで祈願をします。最後にもう一度九十度の礼をして、軽く会釈をしてから下がります。

尚、神社によっては、一社の故実により異なった作法をおこなっているところもあり、伊勢の神宮の神職がおこなう「八度拝八開手」や出雲大社の「二拝四拍手一拝」などがあります。

ぶっかんせい 物換星移

世の中が移り変わることを



冬牡丹

令和 5 年
2023 年

1 月

日	月	火	水	木	金	土
1 先負 ● 元日 歳旦祭 ひつじ	2 仏滅 皇居一般参賀 さる	3 大安 元始祭 とり	4 赤口 三りんぼう いぬ	5 先勝 一粒万倍日 ゐ	6 友引 小寒 一粒万倍日 ね	7 先負 昭和天皇祭 七草 うし
8 仏滅 とら	9 大安 ● 成人の日 一粒万倍日 う	10 赤口 たつ	11 先勝 鏡開き み	12 友引 三りんぼう うま	13 先負 ひつじ	14 仏滅 さる
15 大安 小正月 とり	16 赤口 いぬ	17 先勝 土用 ゐ	18 友引 一粒万倍日 ね	19 先負 うし	20 仏滅 大寒 とら	21 大安 一粒万倍日 う
22 先勝 たつ	23 友引 み	24 先負 三りんぼう うま	25 仏滅 ひつじ	26 大安 さる	27 赤口 とり	28 先勝 いぬ
29 友引 ゐ	30 先負 一粒万倍日 ね	31 仏滅 うし	《 1日 元旦 》 年のはじめを祝う日です。 《 10日 成人の日 》 大人になったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝 い励ます日です。			

二十四節気

【小寒 しょうかん】… 六日

すでに本格的な冬の季節で、寒風と降雪に
悩まされます。

【大寒 だいかん】… 二十日

ますます極寒の辛苦にさいなまれる季節で
すが、春はもつすぐ間近にせまっています。

六曜・選日

《六曜》

【先勝】… 諸事急ぐことによし、午後よりわるし

【友引】… 朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む

【先負】… 諸事静かなることによし、午後大吉

【仏滅】… 万事凶、患えば長びくおそれあり

【大安】… 何事をするのにも吉の日、大吉日

【赤口】… 諸事油断すべからず、正午のみ吉

《選日の吉凶》

【三りんぼう】… 三隣亡日、普請始め、棟上大凶日

【一粒万倍日】… 出資・投資・購入、新規事業開始

… 婚姻は吉、借りる、離別は凶

七十二候《1月》

大寒

初候・款冬華（かんとうはなさく）
フキノトウの蕾が出始める
次候・水沢腹堅（さみみずこおりのこ）
沢の水が厚く張る
末候・鶏始乳（にわとりはじめてのうす）
一フトリが卵を産み始める

小寒

初候・芹乃栄（せりすなわちさかつ）
セリがよく育つ
次候・水泉動（すいせんうごく）
凍った泉が動き始める
末候・雉始雊（きしはじめてなく）
オスのキジが鳴き始める

※七十二候とは二十四節気の各節気をさらに3つの候に細分
し、一年を七十二に分けたものをいいます。季節の移ろいを
気象や動植物の成長・行動などに託して表現したものです。

国旗「日の丸」

をかかげましょう

国旗「日の丸」は朝日（昇る太陽）
を象徴し、円満を意味しています。

稲作を中心に生活してきた私たちが祖
先は、太陽の恵みに感謝してきましたし
た。また古来、国号を「日の本」

「大和」としてきたことにも深い関係
があります。さらに「日の丸」の赤
は、明るさや情熱、勢い、誠を、白

は清らかさや純粋、潔白を表してい
ると言われます。これは清明心を尊
んだ日本人の精神性とも合致します。

まさに、日本国の国柄と日本人の心
を、そのまま形に表現した国旗は
「日の丸を除いて他にないでしょう」

「白地に赤く、日の丸染めて
ああ美しい 日本の旗は」

この歌は明治から今日まで唱歌と
して、小学校で教えられています。

この歌に歌われているように「日の
丸」はシンプルで美しい旗です。国
民ごぞつて祝い、感謝し、または記
念する「国民の祝日」には、国旗を
掲げましょう。

安産祈願 | 1月の戌の日

4日 (水)

16日 (月)

28日 (土)

*戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をして
あります。神社にお問い合わせください。

祝祭日には国旗を
掲げましょう